

都市の<歩行者空間>についての実体的比較

歩行者空間 図 面積
長さ 歩行者空間の分割数 敷地の分割数

正会員 ○丸山 佳誉湖*
同 山田 深**

1. 研究の目的と概要

現代の日本の都市において、人々が自由に通行し利用できるような公共的な場は少なく、幅数 m 程度の歩道やわずかに設けられた休憩スペースなど非常に限られたものになってきている。

こうした公共空間をある見方で示した地図で、「ノリの地図」¹⁾ というものがある。これは、外部空間を(図)とすることによって外部空間を主体とした都市空間を読み取る方法である。ここでは人々のための空間が都市にどのくらい存在しているのかについても明らかにしている。

本論では、人々がお金を支払わずに 24 時間自由に通行し利用することのできる公共的な空間を<歩行者空間>と定義し(表 1)、<歩行者空間>を(図)として読み取ることでその実体を明らかにしていく。そして、物理的数値から各都市を比較していくことで都市空間の成り立ち自体を明らかにするもので、この基礎的知見を得ることが本論の目的となる。

表1:<歩行者空間>の定義について

	歩車分離がされている道歩道部分を<歩行者空間>とし黒色で塗りつぶし表記する。		パブリックスペース公園や広場など公共に開かれた一般の人々が自由に利用できるパブリックスペースといわれるような場所は、<歩行者空間>とし黒色で塗りつぶし表記する。
	歩車分離がされていない道車が走行している空間と人が歩行する空間が共有している道なので、道幅全体を<歩行者空間>とし灰色で塗りつぶし表記する。		公園空地企業ビルが建つような敷地内の空地など、一般の人が通常自由に通行するなど利用できる場を公園空地といひ、<歩行者空間>とし黒色で塗りつぶし表記する。
	歩行者専用道路車が走行することのできない道で歩行者が利用できる専用の道を、<歩行者空間>とし黒色で塗りつぶし表記する。		公共施設が建つ敷地内の空地や広場市役所や文化センターなど、公共施設が建つ敷地にある広場や空地部分で、一般の人が自由に利用できるような場所を、<歩行者空間>とし黒色で塗りつぶし表記する。
	歩行者天国休日の昼間など人通りの多い時間帯だけに限って、車両の通行を規制する道は歩道部分を、<歩行者空間>とし黒色で塗りつぶし表記する。		神社の境内、寺が建つ敷地内の空地など、一般の人が自由に利用できるような場所を、<歩行者空間>とし黒色で塗りつぶし表記する。

2. 研究方法

2.1 調査方法

・調査対象地の選定

それぞれの都市の特徴が顕著に表れているような典型的な都市を調査対象地に選定するものとし、表2の(1)~(7)に示した7都市を設定した。

・500m角の決定

調査範囲については、一般的に認識されているような都市の特徴を捉えることができる適当な範囲とし 500m角という範囲を

設定した。また、観光などのガイドマップ等で取り上げられているような範囲を、都市の中心部とされる範囲と想定し調査を行う 500m角を設定する。

・調査のまとめ

設定した500m角の範囲で調査を行い、<歩行者空間>と判断できる場所を、都市に占める<歩行者空間>の図として図2を作成する。

2.2 分析方法

分析する指標として<面積(S)>、<長さ(L)>、<歩行者空間の分割数(n)>、<敷地の分割数(N)>の 4 つを定め、分析した指標と都市の<歩行者空間>の図から各都市を比較していく。

2.2.1 各指標について

①<面積(S)> 黒色で塗りつぶし示した部分を<歩行者空間>の面積とし、500m角の面積に対する<歩行者空間>の面積の割合を百分率で表したものとす。

②<長さ(L)> 線で示した部分を<歩行者空間>の長さとし、人々が自由に歩ける<歩行者空間>の長さを示す。

③<歩行者空間の分割数(n)> 点線で示した部分をひと繋がり<歩行者空間>とし、<歩行者空間>がいくつに分割されているかを示す。(図1③の例ではn=6となる。)

④<敷地の分割数(N)> 斜線で示した部分が<歩行者空間>によって分割された敷地であり、敷地がいくつに分割されているかを示す。(図1④の例ではN=12となる。)

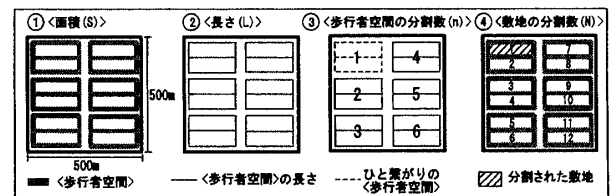


図1 各指標の分析例

3. 調査結果

これらの設定のもと調査を行い、結果として都市の<歩行者空間>の図(図2)、各指標の値(表2)を示し、これらをもとに各都市について考察を行う。

表2:都市の<歩行者空間>についての調査結果

調査対象地/指標	面積S(%)	長さL(km)	歩行者空間の分割数n	敷地の分割数N
(1)北海道札幌市中央区大通付近	18.63	9.32	25	32
(2)北海道室蘭市中央町	18.18	9.96	15	63
(3)北海道室蘭市中央町	15.70	10.01	22	61
(4)東京都渋谷区センター街付近	16.38	9.57	12	68
(5)東京都世田谷区下北沢駅付近	15.64	9.51	1	84
(6)東京都中央区銀座	20.27	10.85	25	58
(7)東京都新宿区西新宿都庁付近	44.30	4.32	5	19

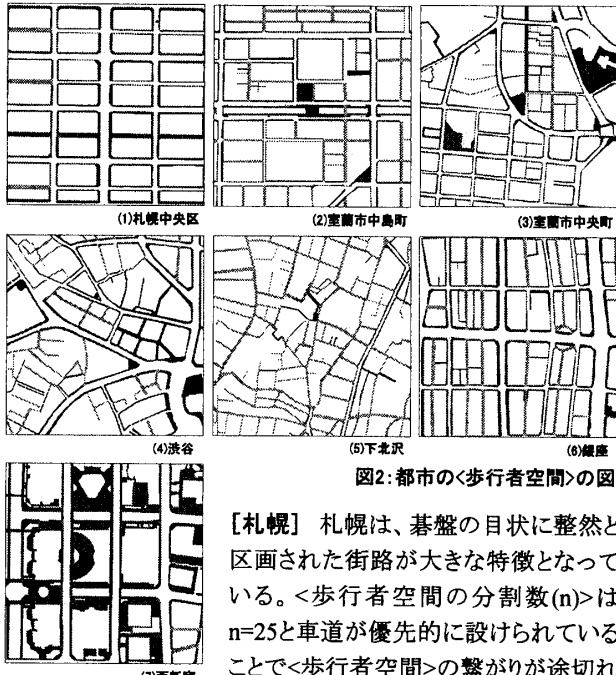


図2: 都市の<歩行者空間>の図

【札幌】札幌は、碁盤の目状に整然と区画された街路が大きな特徴となっている。<歩行者空間の分割数(n)>はn=25と車道が優先的に設けられていることで<歩行者空間>の繋がりが途切れ、

さらに<敷地の分割数(N)>はN=32と敷地は大きな区画に分割されているといえる。

【渋谷】渋谷は、ファッション関係の店舗や百貨店などの新しいビルが次々につくられ、多くの人々が集まる街として賑わいをみせている。<歩行者空間の分割数(n)>はn=12を示しており、これに対して、<敷地の分割数(N)>はN=68という大きな値を示している。つまり、<歩行者空間>は繋がりをもった空間であり、敷地は<歩行者空間>によって細かく分割されているといえる。図3のように多くの人々で賑わう街であるが、<面積(S)>や<長さ(L)>は他の都市に比べて大きな差異はみられない。

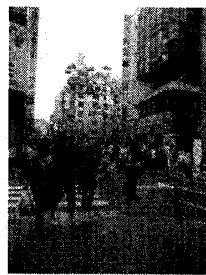


図3: 渋谷の<歩行者空間>

【下北沢】<歩行者空間の分割数(n)>はn=1という小さな値を示しているのに対して、<敷地の分割数(N)>はN=84を示しており、<歩行者空間>によって小さなスケールに分割された敷地の間をひと繋がりになった<歩行者空間>が縫うように続き、繋がりをもった<歩行者空間>を形成している。

【銀座】銀座は碁盤の目状に街路が区画され、<歩行者空間の分割数(n)>はn=25という大きな値を示しており、<敷地の分割数(N)>の値はN=58と、碁盤の目状に区画された街路をもつ札幌に比べ大きな値を示している。銀座は大きな通りに対して、通りから通りへと抜ける道が設けられていることで敷地は分割され、繋がりをもった<歩行者空間>になっているといえる。

【西新宿】西新宿は、都心における大規模な計画的開発がなされ、碁盤の目状に区画された敷地には超高層ビルが立ち並ぶ。4つの指標において特異な値を示しており、超高層ビルの

足下に設けられている公開空地によって、<面積(S)>はS=44.3と非常に大きな値を示している。また、<敷地の分割数(N)>はN=19を示し、大きく分割された敷地に超高層ビルが建ち、人間のスケールからはかけ離れた都市空間になっている。

【室蘭市中島町】中島町は、<歩行者空間の分割数(n)>はn=15、<敷地の分割数(N)>はN=63を示し、<歩行者空間>は適度に繋がりをもった空間といえる。

【室蘭市中央町】中央町は、<歩行者空間の分割数(n)>はn=22、<敷地の分割数(N)>はN=61を示し、敷地は<歩行者空間>によって細かく分割され、<歩行者空間>の繋がりはあまりうまくとられていないといえる。

4. 指標からの実体的比較

図4のグラフをみると、

多くの人々で賑わう下北沢では他の都市に比べて<歩行者空間の分割数(n)>は小さな値を示し、

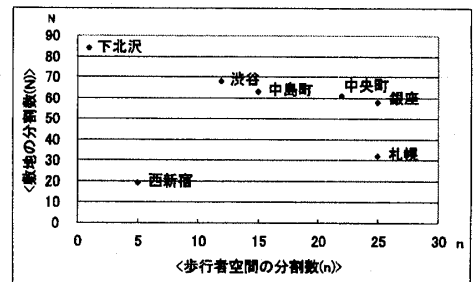


図4: <歩行者空間の分割数(n)>と<敷地の分割数(N)>のグラフ

<敷地の分割数(N)>は大きな値を示している。また、計画的に区画された街路をもつ札幌では<歩行者空間の分割数(n)>は大きな値を示し、<敷地の分割数(N)>は小さな値を示しており、下北沢と札幌の分布には大きな差がみられる。

<歩行者空間の分割数(n)>が小さな値を示すと<歩行者空間>は繋がりのある空間となり、大きな値を示すと<歩行者空間>の繋がりが途切れた空間になっている。さらに、<敷地の分割数(N)>が大きな値を示すとひとつずつの敷地は小さなスケールに分割されることになる一方で、道の分岐が多くなる。

<面積(S)><長さ(L)>の値については各都市であまり大きな差異はみられないが、グラフからは<歩行者空間の分割数(n)>の分割数が大きくなる<敷地の分割数(N)>は小さくなるという関係が読み取れ、この2つの指標の値にそれぞれの都市空間の特徴が表れていると言える。

5. 結

本論では、現代の日本の都市において、人々が自由に通行し利用できるような空間は物理的にどう存在しているのか、各都市の<歩行者空間>の実体を比較することで明らかにしてきた。また、<敷地の分割数(N)>は、この値に対して相反する傾向を示している。さらに、<面積(S)><長さ(L)>という<歩行者空間>の物理的量よりも、<歩行者空間の分割数(n)><敷地の分割数(N)>の方が<歩行者空間>の相互の繋がりになどに影響しているといえる。このようなことから、都市の<歩行者空間>の実体について、その一端を明らかにすることができた。

註1)ローマの地図(ジャンパティスタ・ノリーによるローマ中心部の地図(1748年))

* 日本女子大学大学院
** 室蘭工業大学建設システム工学科講師

* Graduate School, Japan Women's University
** Assist.Prof, Dept of Civil Engineering and Architecture, Faculty of Engineering, Muroran Institute of Technology